



ハイライトよねやま167

1 寄付金速報 — 下期も順調なスタート —

1月までの寄付金は前年同期と比べ0.6%増、約560万円の増加です。普通寄付金が1.7%減ですが、特別寄付金は1.8%増となりました。昨年7月からの累計額は約10億円となり、先月と同様、直近5年間で最高額となりました。会員皆様からのご支援に深く感謝申し上げます。

1月は普通寄付金(クラブで決定した金額×会員数分をお送りいただく定期寄付)下期分の納入が主になる時期です。今年度はこれまでに全クラブの76%、1,724クラブから納入いただきました。今後とも引き続きご協力賜りますようお願いいたします。

2 2014学年度の新ロータリー米山奨学生が決定

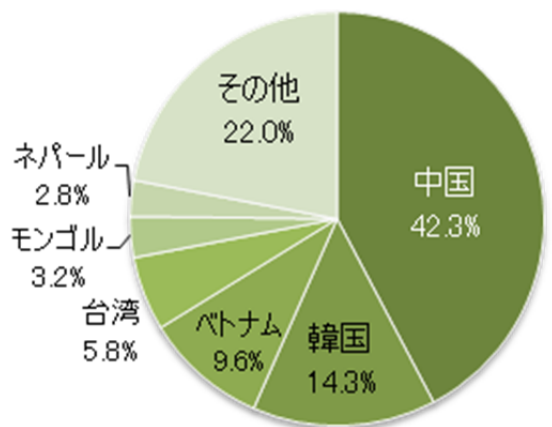
2014学年度の新規米山奨学生の面接選考が各地区の選考委員会によって行われ、合格者が決定しました。

1,403人の応募に対し、奨学金プログラム別の合格者数は、博士・修士・学部課程奨学金が532人、地区奨励奨学金が12人、クラブ支援奨学金が10人、海外応募者対象奨学金(海外からの個人応募)が11人です。このほか、海外学友会推薦奨学生を現在選考中です。

国籍・地域別では、中国42.3%、韓国14.3%、ベトナム9.6%、台湾5.8%の順となっています。また、今回は、アルメニア、ツバル、スロバキア、パレスチナ自治政府から初の合格者がありました。

今後は、継続者および他奨学機関合格者による辞退などによって人数の変動が見込まれますが、今回の合格者と昨年度からの継続奨学生を合わせた716人が2014学年度奨学生となる予定です。

合格者の国別内訳



3 PETS・地区協議会では米山のPRを!

各地区で会長エレクト研修セミナー(PETS)が開催される時期となりました。当会からは毎年、PETSで米山記念奨学事業の説明時間を設けていただくことをお願いしています。

今年は、PETS用・地区協議会用それぞれに、下記資料を各地区ガバナーエレクト事務所にお送りします。ぜひご利用ください。また、よねやま親善大使をスピーカーとして招へいただくことも可能です。ホームcoming制度が使える場合もありますので、事務局までご相談ください。

PETS

2月14日発送

地区協議会

3月末頃～
順次発送

豆辞典(各クラブ2部ずつ)

- ① 豆辞典
- ② 米山学友の群像 vol. 4
- ③ クラブ米山奨学委員長の手引き』
1～3を各クラブ1部ずつ



よねやま親善大使
をスピーカーとして是非
お呼びください!
ご相談は事務局まで



4

日台ロータリー親善会議で学友が活躍



2014年1月26日、台北市内ホテルにて、第4回日台ロータリー親善会議が開催されました。同親善会議は07年に設立され、08年に第1回会議が東京で開催されて以来、2年に1度、日本と台湾交互に行われ、交流を深めています。

今回は日本から想定を大幅に超える400人以上の登録があり、台湾の米山学友が各所で活躍しました。プログラムでは、亜東関係協会（台湾の対日窓口機関）会長に就任した米山学友・李嘉進さんの代理として、やはり学友で同協会幹事長を務める羅坤燦さんが祝辞を述べたほか、台湾学友会理事長の林維宏さんが壇上で学友会の報告をしました。また、台日国際扶輪親善会副理事長の許國文さんが閉会の挨拶をつとめました。このほか、同親善会理事会の事務や日本のロータリアンの出迎え、歓迎の懇親会など、多くの米山学友があたたかい気持ちで支えてくれました。また、今回より、当会の板橋敏雄理事長が日台ロータリー親善会議の総裁に就任しました。

岩邊事務局長より参加しての感想

日台親善会議に前後して、日台の姉妹・友好クラブ同士の交流も盛んに行われました。私たちも米山学友の林士超さん（1995-96/郡山南RC/現・東京米山友愛RC会員）とともに、台北客家RCの方々と昼食会を兼ねて交流を致しました。同RCには学友の呂傳盛さん（1980-84/広島東RC/成功大学教授）もいて、「客家」の歴史を伺いながら親交を深めるとも良い機会となりました。



5

米山奨学生・学友の歌をお披露目 — 第2780地区 —

国際ロータリー第2780地区（神奈川県）米山奨学・米山学友委員会では、ロータリーソングに倣って、米山奨学生・学友のテーマソングをつくろうと企画。元米山奨学委員長でプロの音楽家である小島皓史氏（鎌倉中央RC会員）が作詞・作曲を手掛け、このたび『世界の懸け橋』が完成しました。

「作曲にあたっては、世界のロータリーソングを研究した。歌詞をつくるのに一番苦労したが、“日本のお父さん”と呼んでくれる米山奨学生・学友への思いを込めてつくった」と語る小島氏。『世界の懸け橋』は、2月9日に開催された同地区の奨学生終了式・歓送会で初披露され、小島氏の歌唱指導を受けて練習した後、会の締めくくりに、出席者全員で合唱しました。当日、マイクの前で歌った米山奨学生の徐林さん（中国/鎌倉中央RC）は、「今日が終わりではなく、これから学友として新たにスタートすると実感できる、とても良い歌」と、曲の感想を語ってくれました。

企画を発案した第2780地区米山奨学・米山学友委員会の高田喜好委員長は、「国が違えば言葉が違い、思いが伝わらないこともある。けれども、目と目、声と声を合わせて、手をつないで歌えば、必ずつながりが生まれる。今回、イメージ通りの素晴らしい曲をつくっていただいたので、これから米山奨学生・学友が集まる機会に、歌い続けていきたい。また、ぜひ全国のほかの地区でも歌っていただけるとありがたい」と、語っています。

